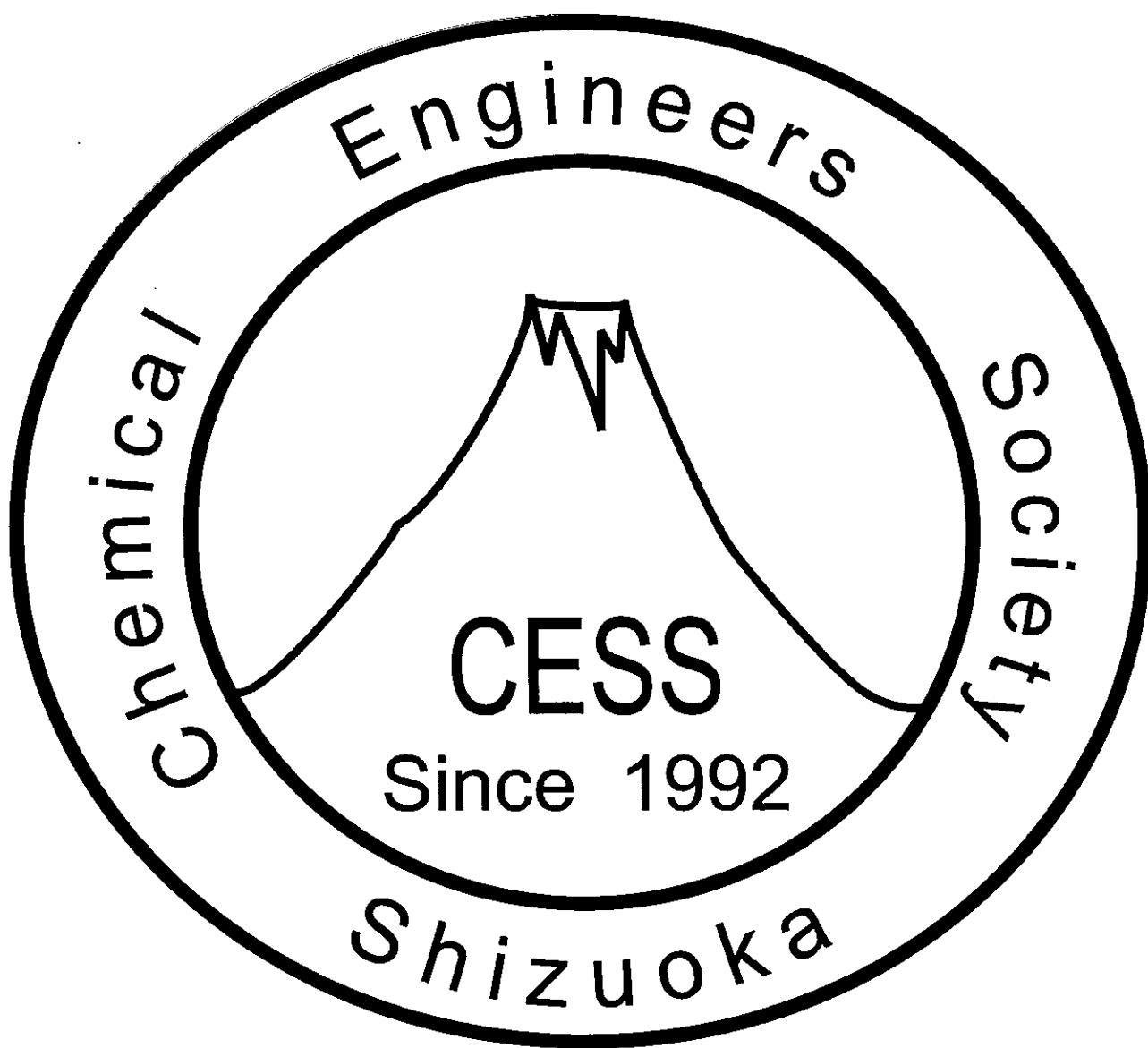


静岡化学工学懇話会

会報

第24号



目 次

ご挨拶	
静岡化学工学懇話会 会長 村松瑞夫 (28、29年度) ······	1
平成 27 年度事業報告 ······ ······ ······ ······ ······	2
第 51 回静岡コロキウム 「グローバルな環境問題に取り組む」	
顛末記 ······ ······ ······ ······ ······	5
第 23 回静岡フォーラム・第 48 回研究交流セミナー	
「再生可能エネルギーによる水素社会へのソフトランディング技術」	
顛末記 ······ ······ ······ ······ ······	7
第 22 回企業技術交流会	
「地元企業で活躍する高専卒業生」顛末記 ······ ······	9
ふゆやすみ！！子供たちのための理科俱楽部 顛末記 ······ ······	11
探検理科俱楽部 顛末記 ······ ······ ······ ······	13
平成 28・29 年度役員名簿 ······ ······ ······ ······	15
平成 28 年度事業計画 ······ ······ ······ ······	16
会員企業ルポ ······ ······ ······ ······	18
静岡化学工学懇話会ホームページ紹介 ······ ······ ······	20
会員名簿 ······ ······ ······ ······	21
規約 ······ ······ ······ ······ ······	25

(付：入会のご案内、入会申込書)

編集後記

ご挨拶

静岡化学工学懇話会

会長（平成28、29年度） 村松瑞夫



来年度は本学会が発足して25年を迎えます、意義有る年度に会長を引き受けさせて頂きますが微力を尽してまいりますので宜しくお願ひします。私は本会発足の前年にドイツアヘマ化学工学展の帰りの機上で須藤教授に誘われ、入会させて頂きました。古いだけの会員ですが本学会では多くのことを学んでまいりました。地域の皆様には、本学会を広め、発展させたいと願っております。

本学会は毎年、静岡フォーラム、静岡コロキウム、研究交流セミナー、子供たちのための理科俱楽部、大人のための理科俱楽部等の事業を主催し地域の発展と会員相互の交流を図つてまいりました。環境問題、エネルギー問題は世界的な問題となっており、又、環境とエネルギーは密接に絡んでおり新たな技術の開発が必要となっております。これらの問題に対し、化学工学は主要な学問として期待されております。

静岡フォーラム、静岡コロキウム、研究交流セミナーは私どもが知識を吸収するのに大切な事業です。事業を継続させる為には本学会は発展しなくてはなりません。会員を増やすのは大変ですが、広く啓蒙すること、実際に体験すること、特に次の世代の子供たちを化学の分野に導くためにも、子供たちのための理科俱楽部は大切な事業です。何年か前に紹介した子供たちが木村先生の話や実験を、大変興味深くそして愉しく聞けたと言っていました。多くの子供たちに化学工学の楽しさ、面白さを教えられたと思います。

化学工学は絶滅危惧種だと言われています。安全で安定した社会を保つには、化学技術の進歩は必要条件です。地域に根ざした活動をしている静岡化学工学懇話会の存在意義は大いに有ると思います。全国各地の化学工学懇話会の中で、静岡化学工学懇話会は活動が活発であると評価されていると聞いておりますが、これからも停滞することなく発展させることが大事です。会員各位のご参加を是非宜しくお願ひします。

皆様の廻りの人達、企業に产学研の交流の場として静岡化学工学懇話会が活動していることを広め、参加して頂けるよう、ご支援、ご協力をお願いします。

平成27年度事業報告

主催行事：

(1) 役員会、総会

開催日：平成27年5月29日（金）
会 場：三井・デュポンフロロケミカル株式会社 清水工場（静岡市）
内 容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定
参加者：33名

(2) 第50回静岡コロキウム・見学会「グローバルな環境問題に取り組む」

日 時：平成27年5月29日（金）
会 場：三井・デュポンフロロケミカル株式会社 清水工場（静岡市）
内 容：講演会、会社見学会
参加者：33名
共 催：化学工学会東海支部

(3) 第23回静岡フォーラム／第48回研究交流セミナー

「再生可能エネルギーによる水素社会へのソフトランディング技術」
開催日：平成27年10月30日（金）
会 場：アクトシティ浜松コンгрレスセンター（浜松市）
内 容：講演4件
参加者：88名
共同主催：化学工学会東海支部
協 賛：静岡大学産学連携協力会、浜松新エネルギー研究会

(4) 第22回企業技術交流会「地元企業で活躍する高専卒業生」

（第10回静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専と同時開催）
開催日：平成27年12月3日（木）
会 場：沼津工業高等専門学校（沼津市）
内 容：講演3件
参加者：187名
共同主催：沼津工業高等専門学校
共 催：化学工学会東海支部、沼津高専地域共同テクノセンター

(5) ふゆやすみ！！子供たちのための理科俱楽部

開催日：平成27年12月25日（金）
会 場：静岡大学グリーン科学技術研究所（静岡市）
内 容：体験型講演2件
参加者：31名
共同主催：静岡大学食品・生物産業創出拠点
後 援：静岡市教育委員会

(6) 探検理科クラブ

開催日：平成28年2月26日（金）
会 場：サッポロビール株式会社静岡工場（焼津市）
内 容：講演2件、工場見学
参加者：17名
後 援：焼津市教育委員会

出版事業：

(1) 第23号会報発行（平成27年5月29日）

共催・協賛・後援行事：

(1) 第39回基礎化学工学演習講座

主 催：化学工学会東海支部
開催日：第1コース 平成27年6月17日（水）から19日（金）
第2コース 平成27年6月24日（水）から26日（金）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

(2) 第2回初步からの化学工学数学演習講座

主 催：化学工学会東海支部
開催日：平成27年8月28日（金）
会 場：名城大学名駅サテライト（名古屋市）
内 容：講義1件
参加者：18名

(3) 第3回初步からの化学工学概論・演習講座

主 催：化学工学会東海支部
開催日：平成27年9月14日（月）～15日（火）
会 場：名城大学名駅サテライト（名古屋市）
内 容：講義・演習12件
参加者：16名

(4) 第48回研究交流セミナー／第23回静岡フォーラム
「再生可能エネルギーによる水素社会へのソフトランディング技術」
主 催：化学工学会東海支部
協 賛：静岡大学産学連携協力会、浜松新エネルギー研究会
開催日：平成27年10月30日（金）
会 場：アクシティ浜松コングレスセンター（浜松市）
内 容：講義4件
参加者：88名

(5) 第49回化学工学の進歩講習会「環境エネルギー 最新技術の基礎と応用」
主 催：化学工学会東海支部
開催日：平成27年11月19日（木）～20日（金）
会 場：名城大学名駅サテライト（名古屋市）
内 容：講演12件
参加者：41名

(6) 第98回講演見学会「リンナイ瀬戸工場見学～省エネ最前線企業に学ぶ～」
主 催：化学工学会東海支部
開催日：平成28年1月20日（水）
会 場：リンナイ瀬戸工場（瀬戸市）
内 容：講演2件、工場内見学
参加者：29名

平成27年度 総会・講演会

第50回静岡コロキウム

「グローバルな環境問題に取り組む」顛末記

平成27年5月29日（金）に、平成27年度総会、見学会、第50回コロキウムが、静岡市清水区三保にある三井・デュポンフロロケミカル株式会社清水工場様を会場として開催されました。参加者は33名でした。

総会では、まず木村元彦会長（静岡大学大学院）の挨拶がありました。その後、26年度事業報告・会計報告があり、2回のコロキウム、静岡フォーラム、研究交流セミナー、こどもたちのための理科俱楽部、大人のための理科俱楽部が例年通り開催されたことが報告され、承認されました。事業計画・予算案では、平成27年度も6つの行事を予定していることが紹介され、承認されました。

総会後に第50回コロキウムと見学会が行われました。まず、「グローバルな環境問題に取り組む」というテーマのもと、以下の2件のご講演をいただきました。

1. 「中国大陸からの重金属の越境汚染評価」 坂田昌弘（静岡県立大学教授）
2. 「三井・デュポン フロロケミカル(株)における環境への取り組み」

山崎栄司（三井・デュポン フロロケミカル(株)常務執行役員）

坂田様のご講演では、中国大陸からの重金属の越境汚染を評価するため、エアロゾルを採取してイオウやホウ素の同位体比を解析することで、中国産石炭に由来する微量元素の越境輸送を評価するという取り組みが紹介されました。また、宍道湖の堆積物コアを採取して重金属の分析をすることで、鉛、カドミウム、アンチモンが大陸由来であることが明らかになつたことなどが紹介されました。

山崎様の講演では、三井・デュポン フロロケミカル株式会社様の、これまでの環境への取り組みが紹介され、特にフロンからの脱却をテーマに、多くの製品を開発してきた経緯が紹介されました。低分子量化合物の特徴である人に優しい特徴をできるだけ活かしつつ、これら環境に対する影響も低減した物質の開発・提供を進めてきたこと、低分子量化合物の変遷と設備面で必要とされた化学工学の基礎知識の変化についてもご紹介いただきました。

その後、三井・デュポン フロロケミカル株式会社清水工場様のフッ素ケミカル製品の製造現場を見学させていただきました。山崎様は木村会長の大学の同期ということもあり、普段は見せないような製造の詳細まで見学させていただきました。

見学会終了後、バスにて新清水駅まで移動し懇親会を開催しました。会員の皆様の活発な議論で、楽しい会となりました。

最後に、本会の開催でお世話になりました、三井・デュポン フロロケミカル株式会社の佐藤様、山崎様、講師の坂田先生、参加された皆様に深く感謝申し上げます。

(静岡大学 金原和秀 記)

第23回静岡フォーラム・第48回研究交流セミナー

「再生可能エネルギーによる水素社会へのソフトランディング技術」

顛末記

2015年10月30日(金) 13:30~16:50、アクトシティ浜松コングレスセンター(53~54会議室)において、第23回静岡フォーラム・第48回研究交流セミナーが開催されました。講演会テーマは「再生可能エネルギーによる水素社会へのソフトランディング技術」でした。本フォーラムは、化学工学会東海支部との共催であり、静岡大学産学連携協力会および浜松新エネルギー研究会の協賛を得られました。

静岡化学工学懇話会の会員や一般の皆様をはじめ、静岡大学工学部から多数の学生が参加し、80名程度の盛大なフォーラムとなりました。

木村会長の開会の挨拶の後、四件の講演が行われました。

最初は、JX 日鉱日石エネルギーの壱岐英様により、「有機ハイドライドによる水素供給技術の開発」に関する講演がおこなわれました。JX のエネルギー事業への取り組み、水素(エネルギーとしての意義、水素を取り巻く環境、水素をつくる、はこぶ、つかう)、インフラ整備(水素ステーション網の構築)、課題と対応策、今後に向けて(中長期構想)について、紹介されました。

続いて、千代田化工建設㈱の今川健一様より、「水素エネルギーの大規模貯蔵輸送技術-SPERA 水素[®]システムと水素サプライチェーン構想-」について講演がなされました。背景(水素の位置付けや各種エネルギー源の比較)、水素サプライチェーン構想、有機ケミカルハイドライド法の特徴、脱水素触媒技術、実証試験状況、展望と課題について、紹介されました。

休憩の後、三件目は、京都大学大学院の江口浩一様より、「エネルギーキャリアとしてのアンモニアの利用技術」について講演が行われました。アンモニアの特徴、アンモニアをエネルギーキャリアとする社会、アンモニア分解反応用触媒、アンモニア燃料電池研究(アンモニア接触分解触媒の開発、内部アンモニア分解型固体酸化物形燃料電池の開発、分解触媒反応器と燃料電池のモデル実験の実施、アノン交換膜形燃料電池の開発)について、紹介されました。

最後の講演は、産業技術総合研究所の難波哲哉様より、「再生可能エネルギーの大量導入に向けて」について講演が行われました。太陽光発電の高効率化・低コスト化技術、地熱・地中熱の適正利用のための研究、再生可能エネルギーの大量導入のための新システム統合技術について、紹介されました。

講演会の閉会の挨拶は、村松瑞夫副会長よりなされました。

講演会後、場所を変えて、オーベラクトシティホテル浜松30階パールにて、講演の講師方を招いて、懇親会が行われました。須藤雅夫先生から挨拶と乾杯のご発声の後、歓談に移り、参加者らは講演者を交えて活発に情報・意見交換・交流を行い、懇親を深めました。中締めには、飯塚弘様よりご挨拶を頂き、終了しました。

最後に。大変お忙しいにもかかわらず、ご講演頂きました講師の方々およびご参加していただきました皆様にお礼を申し上げます。また、懇話会幹事・関係者をはじめ、ご協力いただきました化学工学会東海支部、協賛いただきました静岡大学産学連携協力会および浜松新エネルギー研究会の関係者皆様に感謝申し上げます。

(文責 静岡大学 孔 昌一)



第22回企業技術交流会

「地元企業で活躍する高専卒業生」

顛末記

12月3日に沼津工業高等専門学校にて第22回企業技術交流会が開催された。本交流会は、「第10回静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」と同時開催であった。テクノフォーラムでは『地域の産業とともに歩む!』をキャッチフレーズに、三島商工会議所会頭、三島信用金庫理事長 稲田精治 氏による「地域金融機関における地方創生への取り組み」についてご講演を頂いた。静岡県東部地区における少子高齢化の進展、人口減少、人口流出に伴う地域経済の活力低下について現状をご報告頂き、三島信用金庫が進めるまち・ひと・しごとの総合戦略(地方創生)について説明を頂いた。特に、“すべての人が活躍する地域づくり”を目指し、女性と障がい者が活躍する地域づくりに関する取り組みは大変興味深いお話を頂いた。また、本年4月に沼津高専校長に着任した藤本晶 氏による「半導体レーザからもちもちマグロまで—専門にとらわれない商品開発ー」と題した講演も行われた。産官学連携の成功は『学』担当者の“商品に仕上げるという強い気持ち”にかかっており、自分の専門と社会ニーズの調和を図りながらもう一つ(それ以上)の専門を持つことの必要性を説明された。この言葉通り、藤本校長は半導体工学が専門でありながら、前任校の和歌山高専にて「柑橘類のジャバラの果皮を使ったスイーツ」、「マグロの胃袋を用いた大和煮」、「びん長マグロの肉質を改善した新食感『もちもちマグロ』」、「感性工学に基づいた新しい梅ジェリーの開発」など農林水産県・和歌山の特性を活かした産学連携を成功させている。技術には『筋』があり、自分が行っている研究に筋があるのか考へる良い機会を与えて頂いた。

基調講演の後、沼津高専教職員によるポスター展示、テクノフォーラム側の企業ポスター展示と並行して本企業技術交流会の展示(3件)が行われた。木村会長の開会の辞に続いて、先ほどの講演に引き続き藤本校長より沼津高専の教育システムについて講演を頂いた。藤本校長より沼津高専が進める特色ある技術者教育「学際教育」について説明を頂いた。本年度の企業技術交流会では、静岡県内の化学工業分野の企業で活躍する高専卒業生の活躍を紹介し、沼津高専学生に対して卒業後のキャリアイメージを考える機会を与えることを目的とした。日本食品化工株式会社 濱粉営業部濱粉二課 芦川正高 氏(沼津高専1986年度工業化学科卒業)の発表から、世の中に絶対必要なもの、特に人間が生きていく上で必須な「食」を提供する会社で働くことの強い使命感を感じた。また、学生に対して、世の中には「人柄と才能を兼ね備えた技術者」は少ないので、沼津高専の教育理念である人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待に応えて欲しいと激励を頂いた。特種東海製紙株式会社 研究開発本部 豊竹幸恵 氏(1988年度工業化学科卒業)からは、技術者として、既存分野の延長ではなく、新市場への参入や新たな業域の創造をもたらすような製品・事業の開発を主導することの必要性をお話頂いた。また、学生に対しては協調性やプレゼンテーションスキルも含む「コミュニケーション能力」が社会人として活躍する上で重要な姿勢であることをご説明頂いた。最後に、矢崎総業株式会社 先行第一開発部 佐野輝臣 氏(2010年度専攻科応用物質工学専攻卒業)より、自分の開発した技術が車両に搭載されることを夢見て、日々目の前の業務に

没頭している説明を受けた。また、学生に対して、高専時代に学んだ内容が予想以上に業務で活用する機会が多くあり、日々の生活を大事にするようアドバイスを頂いた。活発なディスカッションの後、木村会長の閉会の辞で本交流会を閉じた。

その後、場所を三島駅近くに移動し、講演者を招いた懇親会が行われた。矢崎総業株式会社 飯塚弘 氏（幹事、元会長）による乾杯のご発声の後、歓談に移りました。静岡大学 金原和秀 氏（幹事、庶務担当）の締めの言葉にあったように、参加者は少数であったが非常に内容の濃い懇親会であった。

最後に本会を共同開催した藤本晶 校長、芳野恭士センター長をはじめとする沼津高専地域共同テクノセンター及び研究支援係の皆様に深く感謝申し上げます。

（文責 沼津高専 竹口昌之）



ふゆやすみ！！子供たちのための理科俱楽部

顛末記

平成 27 年 12 月 25 日（金）13:30～16:00、クリスマスの日に「ふゆやすみ！！子供たちのための理科俱楽部」が、静岡大学の静岡キャンパスにあるグリーン科学技術研究所遺伝子実験棟の実験室で開催されました。子供たちのための理科俱楽部は、平成 23 年より地域貢献活動の一環として行われており、今回、初めて静岡キャンパスの中で開催されました。静岡での開催ということから、静岡大学食品・生物産業創出拠点（会長 河岸洋和教授）と共に開催しました。また、静岡市教育委員会の後援をいただき、「静岡科学館る・く・る」や図書館、児童館などに宣伝チラシを置いていただいて宣伝を行いました。

内容は、おはなし 1 と 2 で構成しました。

おはなし 1：科学現象の不思議を、体験しよう！サイエンスショー

静岡大学大学院総合科学技術研究科 木村元彦氏

おはなし 2：「カイコの糸」をつむいでみよう！

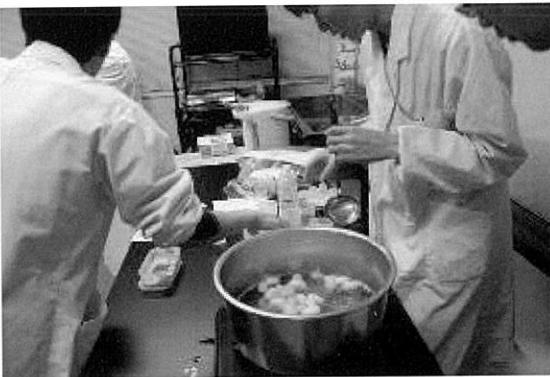
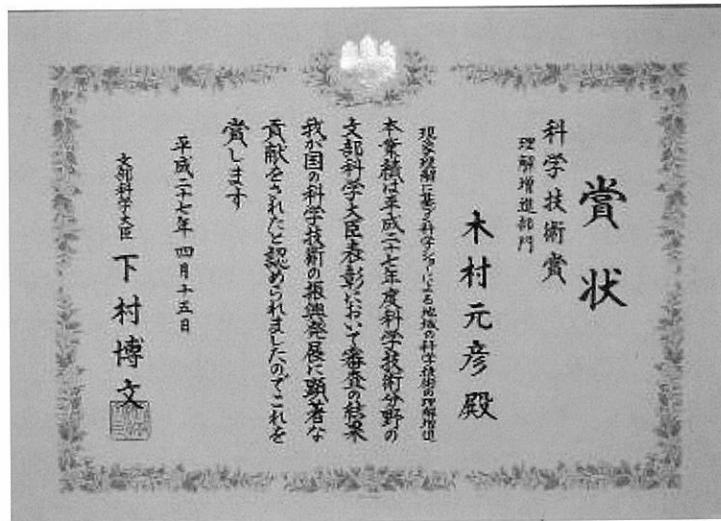
静岡大学グリーン科学技術研究所 加藤竜也氏

木村先生は「現象理解に基づく科学ショーによる地域の科学技術の理解増進」の業績で、平成 27 年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 科学技術賞 理解増進部門を受賞しています。木村先生には、子供たちのための理科俱楽部では、毎回サイエンスショーをしていただいている。今回の文部科学大臣表彰は、先生のご努力の結果であると、懇話会としてお祝い申し上げます。今回のサイエンスショーでは、「電気の不思議」と題してプラズマ放電や 10 万ボルト放電、「磁石の不思議」と題してアルミ円盤で磁石を回転させる、「空気の不思議」と題して直径 1.5 m の巨大風船を体験するなど、子供が喜ぶ企画でした。最後に電池で動くホバークラフトを体験し、子供だけではなく、保護者も大いに楽しんでいました。

加藤先生は、カイコを利用したタンパク質生産のご研究をされている先生です。今回の企画では、茹でたカイコの繭から糸を取り、ペットボトルを用いた自作の糸取り機で糸を巻き取っていくという体験を行いました。研究室の学生がアシスタントとして教え、初めて目にする繭から子供たちは楽しそうに糸つむぎに取り組んでいました。また、実際のカイコの幼虫もいて、子供たちが手に乗せて保護者と観察するなど、保護者の方々も子供たちに負けないくらいの好奇心で体験に参加していました。あっという間の一時間でした。無邪気に楽しんでくれた生徒たちの様子を見て、主催者としても大変うれしい企画となりました。

最後に、今回おはなしいただいた、木村先生、加藤先生に大変感謝いたします。また、アシスタントいただいた学生さんたち、遺伝子実験棟実験室の使用を快くご了解いただいた、グリーン科学技術研究所長朴先生、ならびに遺伝子実験棟を管理されている道羅先生に深く感謝申し上げます。

（静岡大学 金原和秀 記）



探検理科俱楽部顛末記

顛末記

2月26日にサッポロビール株式会社静岡工場にて、探検理科俱楽部が参加者17名で開催されました。当日は快晴で、河津桜が咲く、とてもよい日和でした。

懇話会 村松副会長のご挨拶から始まり、サッポロビール社 三谷様に司会を行っていただきました。同社工場長 仲本様にご挨拶いただいた後、同社 後藤様より静岡工場排水処理では嫌気性処理により負荷を低減していること、処理水を循環させることにより負荷変動を平準化していることなどを説明いただきました。その後、現場を見学させていただき、処理水が浄化されていく様子やビールを醸造していく様子を見せていただきました。排水処理は普段の見学コースでは行かないところまで見せていただけました。

工場見学の後、ガーデンハウスに戻り2件の講演がありました。

1件目は同社研究員 高瀬様により「ビールと健康」に関する講演をいただきました。ビール原料と機能性、ビールとプリン体、ビールテイストの健康食品が主題でした。肌のターンオーバー促進を目的とした化粧品原料やホップによる筋肉回復、麦由来のβグルカンによる吸収抑制、難消化デキストリンによる血糖値コントロールなど様々な機能性を追求されていることが紹介されました。

2件目はエビスビール記念館館長 橋田様により「ビールの起源」に関する講演をいただきました。メソポタミア文明やエジプト、ゲルマン民族などそれぞれの起源による製法をご紹介いただき、それぞれにまつわる話題も教えていただきました。名前だけは知っていたハムラビ法典に、国がビールの値段（麦との交換レート）などを決めていることは新鮮な驚きでした。また、サッポロビールで使われている☆は北海道開拓使が北極星を目指して移動していたことに由来することや、大麦は便利だから「大」麦、小麦は粉にして加工しなければならず便利ではないから「小」麦と分けられたことなど、大変興味深いお話を聞かせていただきました。

理科俱楽部として見学と講演で知的好奇心を満たした後は、静岡麦酒と黒ラベルを試飲させていただきました。静岡麦酒は柔らかでなめらかな口当たりで飲みやすく、工場でいただくビールはやはり格別でした。さらに、ビール缶のフタ巻き締めを体験させていただきました。貯金箱になるようフタに穴が開いており、貯金箱として使えるようになっていました。金原庶務幹事のご挨拶で閉会した後、自分で巻き締めした自分だけのビール缶貯金箱をお土産に帰路につきました。

工場見学、講演、試飲におみやげまで頂き、サッポロビールの方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。

(文責: 静岡大学 武田和宏)



静岡化学工学懇話会役員名簿 (28・29年度)

(平成28年4月25日現在)

<会長>

村松 瑞夫 村松風送設備工業株式会社

<副会長>

松本 豊 公益財団法人静岡産業振興協会 静岡市産学交流センター
金原 和秀 静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻

<幹事>

前澤 昭礼	(庶務担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻
孔 昌一	(会計担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻
河合 文雄	(会誌担当) 有限会社ホープ・マネジメント
武田 和宏	(H P 担当) 静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻
飯塚 弘	矢崎総業株式会社 技術研究所
谷野 英雄	中部ガス株式会社 浜松供給センター
石黒 義昭	矢崎エナジーシステム株式会社 ガス機器事業部
岩尾 康範	静岡県立大学 薬学部
大島 一真	沼津工業高等専門学校 物質工学科
加田 雅博	ポリプラスチックス株式会社 研究開発本部
菅 公一	株式会社中央発明研究所 浜松 TSC
坂田 昌弘	静岡県立大学 食品栄養科学部
新谷 政己	静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻
神谷 真好	静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター
鈴木 秀圭	日本軽金属株式会社 蒲原ケミカル工場
鈴木 悠介	静岡県工業技術研究所 富士工業技術支援センター
竹口 昌之	沼津工業高等専門学校 物質工学科
立元 雄治	静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻
朴 龍洙	静岡大学 グリーン科学技術研究所
東 健策	株式会社巴川製紙所 研究開発部 技術研究所
福原 長寿	静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻
二村 文久	静岡ガス株式会社 統括部 技術開発センター
増本 誠吾	株式会社J-オイルミルズ 静岡工場
八木 淳一	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター
脇屋 和紀	株式会社大川原製作所

<監事>

三谷 優	サッポロホールディングス株式会社 價値創造フロンティア研究所
木村 元彦	静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻

平成28年度事業計画

主催行事：

(1) 役員会、総会

日 時：平成28年5月20日（金）

会 場：日本マイクロバイオファーマ株式会社 磐田工場

内 容：事業・会計報告及び承認、事業計画・予算案の審議及び決定

(2) 第51回静岡コロキウム・見学会

共 催：化学工学会東海支部

日 時：平成28年5月20日（金）

会 場：日本マイクロバイオファーマ株式会社 磐田工場

内 容：講演会、会社見学会

(3) 子供たちのための理科俱楽部

テー マ：未定

日 時：平成28年8月上旬

会 場：未定

内 容：講演会

(4) 第24回静岡フォーラム

テー マ：未定

共 催：化学工学会東海支部

日 時：平成28年10月中旬

会 場：アクトシティ浜松コングレスセンター

内 容：講演会

(5) 第23回企業技術交流会

テー マ：未定

日 時：平成28年11月中旬

会 場：未定

内 容：講演会

(6) 探検理科クラブ

テー マ：未定

日 時：平成28年12月中旬

会 場：未定

内 容：講演会

(7) 第52回静岡コロキウム

テー マ：未定

日 時：平成29年1月下旬

会 場：未定

内 容：講演会

出版事業：

(1) 第24号会報発行（平成28年5月20日）

共催・協賛・後援行事：

(1) 第40回基礎化学工学演習講座

主 催：化学工学会東海支部

日 時：第1コース 平成28年6月29日（水）から7月1日（金）

第2コース 平成28年7月6日（水）から7月8日（金）

会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

(2) 第3回初步からの化学工学数学演習講座

主 催：化学工学会東海支部

開催日：平成28年5月10日（火）

会 場：名城大学名古屋ドーム前キャンパス（名古屋市）

(3) 第4回初步からの化学工学概論・演習講座

主 催：化学工学会東海支部

開催日：平成28年5月12日（木）から5月13日（金）

会 場：名城大学名古屋ドーム前キャンパス（名古屋市）

(4) 第49回研究交流セミナー

(5) 化学工学会東海支部 第99回講演見学会

(6) 第50回化学工学の進歩講習会

小野設備工業株式会社

(面会者) 代表取締役 石塚 明 氏
社長室長 市川 優 氏

会員企業を訪問し、事業活動の様子を取材させて戴き、ご紹介するコーナーです。今回は、浜松市中区助信町にあります小野設備工業株式会社を訪ね、代表取締役 石塚 明 氏と社長室長 市川 優 氏のお二人に事業概要や化学工学との関わりなどをお聴きしました。

1. 事業概要は

当社は、昭和48年（1973年）8月に設立しました。工場における省エネ・節電・CO₂削減は企業にとって大きな課題です。当社は、空調・蒸気・空気・水、さまざまな分野でのコスト削減効果のあるシステムへの設備導入やリニューアルを設計から施工、アフターサービスまで、サポートさせて戴いております。

エネルギーの測定・診断をもとに、エネルギーが最適になるような提案を行います。

- ・設備のダウンサイ징
- ・省エネ設備、省エネシステムの導入
- ・省エネ補助金の活用
- ・太陽光発電、L Pガス発電

当社には、これらの業務上で必要な以下の有資格者が、在籍しています。

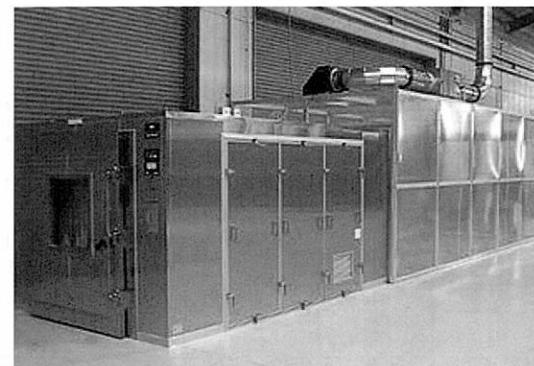
1級管工事施工管理技士／9名	2級管工事施工管理技士／2名	
1級土木施工管理技士／1名	2級土木施工管理技士／5名	
建築設備士／1名	第2種電気工事士／3名	エネルギー管理士／1名
消防設備士（甲類1類）／5名	給水装置工事主任技術者／8名	
下水道排水設備工事責任技術者／5名	2級建設業経理事務士／2名	



左から、市川氏、石塚社長

バイソンサイクロン設置工事

蒸気ボイラーの燃料費が年々高騰する中で、蒸気省エネルギー圧力調整器「バイソンサイクロン」の設置を提案し、施工した。約10%の燃料費削減が達成できた。



オゾンクリア BOX 設置工事

布団の除菌力を高めるため、従来の熱乾燥による除菌だけでなく安全なオゾンを使用して二重に処理する装置を設置した。

2. 化学工学との関わりは如何ですか。

エネルギー管理（熱回収）、流体制御（圧力損失、流量）、液体・粉体回収（吸着、分級）、殺菌（乾燥、オゾン）など様々な化学工学技術が活用されています。

これら技術の応用に関して、当社では教育の一環として毎月1回、講師を招いて研修会を実施しています。

3. 今後の方向は如何ですか。

当社の企業理念は、「良い設備を、工期通りに、安く、安全に、そして環境に配慮し、提供する」ことで顧客満足を得ること、そして海外研修旅行、社内リクリエーション補助制度、資格取得推進、社内での技術教育などを通じて、社員の会社に対する満足度を高め、モチベーションの向上をはかること、更に「地球環境保全が人類の存続と企業の恒久的な繁栄のための重要な課題である」ことを強く認識し、地球環境の保全とより豊かな社会の実現を目指すことを掲げています。

エネルギー効率の追求をはじめあらゆる技術面で情報技術の利用も盛んに行われるようになり、一層の進化を遂げていくと考えます。当社でも、そうした観点を視野に体制を整え、よりハイレベルな提案ができるように努めていく所存です。

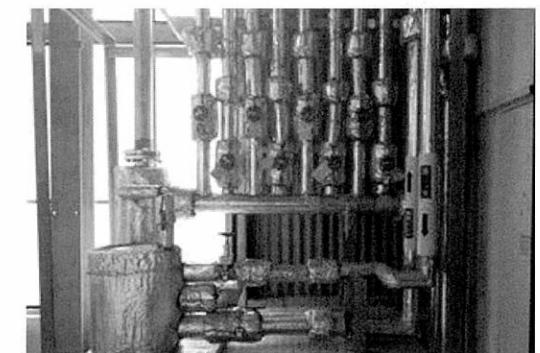
今回は、産業界における設備面の効率や安全面での貢献を追求されている会員企業の小野設備工業（株）を訪問しました。

同社では理念として顧客満足度を第一にして、それと並んで社員の福祉向上を掲げておられます。この理念の実現を目指すことで、真心のこもった提案を可能にしているように思います。

仕事のベースとなる技術は、化学工学そのものです。製造の表舞台をしっかりとバックアップしていることへの自負が窺われます。

今後の同社の一層の社会貢献とご発展をお祈り申し上げます。

リポーター 幹事 河合文雄



蒸気ドレン回収工事

従来、側溝に排出していた蒸気ドレンを回収し、蒸気ボイラーで再利用することにより、燃料及び水使用量を削減できた。

静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介

静岡化学工学懇話会のホームページではコロキウム、フォーラム等の各種行事の告知のほか、会報のバックナンバーの閲覧や各種行事への参加申込みが可能となっております。是非ご覧下さい。

URL : <http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/wordpress/cess/>

各行事において「関係者の方は写真をこちらに置きましたので御覧ください。」とある箇所は、以下のメール（アカウント）、およびパスワードでログインするとご覧いただけます。

メール（アカウント）: **cesskonwakai**

パスワード: **konwakai2016**

懇話会事務局のメールアドレスもございます。各種行事へのお問い合わせや参加のお申込み、懇話会へのお問い合わせにご利用ください。

懇話会事務局 E-mail : cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp

法人会員の皆様に本会ホームページからのリンクをお願いしております。よろしければ、事務局宛にリンク先 URL をお知らせ下さい。ホームページに関するご意見やご要望などがございましたら、是非事務局宛にお知らせ下さい。



懇話会ホームページ（トップページ画面）

(静岡大学 武田和宏)

静岡化学工学懇話会会報
<第24号>

発行／平成28年5月20日
静岡化学工学懇話会
会長 村松 瑞夫
〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1
静岡大学工学部化学バイオ工学科内
TEL (053) 478-1188
FAX (053) 476-0095

製作／静岡化学工学懇話会
(有)ホープ・マネジメント
TEL (053) 430-4239
FAX (053) 430-4238